



# 塩原孝子のあつたが通信

発行責任者：塩原孝子 連絡先：松本市寿北5-15-27 Email: takako092@outlook.jp ☎0263-27-1122 (共産党)

## 国は2024年12月2日に今の健康保険証を廃止するとしています

### あわてないで大丈夫！紙の健康保険証が利用できます！ これからも

全日本民医連

今までどおり  
保険証でも受診できます

12月2日から“現行の保険証は発行されない”というけれど  
マイナ保険証がなくても！

期限までは今の保険証が使えます  
有効期限までは、今の保険証で受診できます。

資格確認書でも受診できます  
12月2日以降に資格確認書がお手元に届きます。

厚労省が“台本”まで作って5ヶ月「利用促進集中取り組み月間」と称して医療機関や薬局のスタッフによる声掛けとチラシ配布を推進。「マイナ保険証がなければ、受診や処方が出れない」との誤解や不安を広げ、窓口でのトラブルも続発しました。全国の18地方紙が行ったアンケート調査でも回答者1万2千人余りの8割が今の保険証を残すことを求めています。



マイナンバーによる健康保険証の活用が始まっていますが、

## 今まで通り保険証も持参してください。



☐政府の資格確認ネットワークシステムはまだまだ不安定です。保険証がなければ資格確認できない

長野市内の開業医の窓口  
このような表示がされています

☐マイナンバーカードの取得は任意です。

マイナ保険証への移行で国・保険者の保険証交付義務がなくなり、申請しなければ手元に届かなくなってしまう。特に高齢者や障害者・認知症の方など自力で申請・更新が困難な方々が心配です。

いつでもどこでも安心して医療を受けられる「国民皆保険制度」を守ることが重要です。

### 私が“マイナンバーカード”（マイナ保険証）を登録しない理由

私は高齢であるので手続きが面倒です。顔認証、暗証番号の記憶も出来ないと思います。それで医療にかかれなないのは困ってしまいます。

その他、税金や年金、医療・銀行口座など私の情報が全部わかってしまうことが不安です。裸の王様になってしまうのは嫌です。

C・Tさん



マイナンバーで個人情報がすべて集められてマーケティングなどのもうけの材料にされてしまうのは嫌です。カードが間違っって届いてしまう話しも聞き、私は今のままの保険証を引き続き続けてほしいです。

N・Sさん

## 私たちは現行の保険証の存続を求めています



# 市民に寄り添う街を

## 生活支援と納税支援を一体に

**塩原** 県の滞納整理機構から強権的な差し押さえを受けて生活に困った市民がいた。市の滞納整理で対応できず県に上げている件数はどれくらいか？

また、国税庁法や地方税法では生活困窮の場合は差し押さえを免除を求めることが出来るとしているがどうか。

**財政部長** 徴収困難な事案を年間125件を県に上げている。生活困窮している納税者から滞納処分の執行停止の申請を受け付けて一年の範囲内で徴収猶予が出来る。執行停止も可能な場合もある。

**塩原** 滋賀県野洲市のように、滞納処分ではなく庁内の複数部署で連携して支援に結びつけるやり方に方向転嫁することを求める。

## 統合型新庁舎を

**塩原** 庁舎を南松本・駅前等に分散し、オンライン窓口の拡大で、分散型市役所を「市民に身近な市役所」と名を変えて推し進めている。オンライン窓口の実態をうかがう。また職員の見解は聞いているのか？

**DX推進本部長** オンライン窓口利用は一日23件程度。生活保護の申請が出来た事案が2件あった。全担当課とはつながっていないので、調整が必要だ。

**総合戦略室長** 若手職員を中心に意見を聞いていきたい。

**塩原** オンライン窓口では不十分。市民の声と全職員の声を広く聞き、利用しやすく、働きやすい統合型市役所を要望する。

## 物価高騰対策を

**塩原** 物価高騰で暮らしが大変になっている。一人親世帯では1食の食費が百円の世帯もある。市独自の生活応援対策をすべきだ。また、冬の福祉灯油等検討して欲しい。

**総合戦略室長** 市の施策は考えていないが、必要な人に支援が届くように取り組んでいく。

### 市政は市民を守っているか

## 市政の役割

「中心市街地の自営業をどう守るのか」「交通弱者の通院、買物などはどうするのか」「生活保護申請は窓口で親切に相談にのってくれるだろうか」私たちは暮らしの様々なことを国の制度だけでなく、市政は市民を守っているかを注目しています。

私たちはなぜ市政に暮らしの願いを求めることができるのでしょうか。

それは、戦後、憲法で地方自治が明記され、国の統治を限定してもうひとつの統治を置くことで民主主義と基本的人権を一層豊かに実現しようということになったからです。住民に身近な行政はできる限り地方公共団体（市）にゆだねることを基本にしました。住民が生活を営んでいる地方自治体が法（条例）を定め、独自の予算をもって自主的に行政を行ってもいいと地方自治の役割を定めました。

（反貧困セーフティネット・アルプス

児玉典子）

## 高齢者のエアコン設置助成を

**塩原** 今年の熱中症警戒アラート発令日数を問う。また救急搬送者数と、高齢者の割合を聞きたい

**健康福祉部長** 発令は19日。救急搬送者数は103名で高齢者は六割近くを占めている。

**塩原** 熱中症弱者の高齢者がエアコンを購入する際の補助を求める。病気の背景には社会的要因が影響しているという視点と、行政が現場に出向いて必要な方に支援を届ける立場で福祉行政に取り組んで欲しい。



# 税金は暮らしや災害対策に

## 松本城プロジェクト・シンポジウム

冬期（12月～2月）の夜間3時間を、お城を映像で飾る費用に、五千八百万円をかけ、一定の経済効果があつたとの報告でした。

最終日に、日々の暮らしが大変な中で適切な税金の使い方だったのか疑問であると、反対意見を述べました。



命を守る大事な事業なので予算をしっかりと確保することを求めました。

## 耐震診断予算

地震災害が各地で起こり、住宅の耐震診断の申請が増えています。昨年度は10月に補強工事、12月に耐震診断の予算枠がいっぱいになり、申請が締め切られていました。今年度は能登地震があり急激に申請が増えました。受付開始後一カ月も経たない4月末で申請が締め切られました。大変問題です。

## のーと 本格運行に

寿地区と梓川地区で実証実験をしていた「AIオンデマンドバスののーと」について、地区の方々と一緒に、住民のアンケート結果を反映した運行形態にして、本格運行に移行してほしいと要望しました。高齢者の足の確保に必要な「のーと」が来年度から本格運用になりました。



## 女性が生きやすい社会を

7月17日松本市女性団体連絡協議会主催の女性市議との懇談会に参加しました。

松本市の女性議員は12名で38%を占めます。

仕事と子育てが両立する社会の実現やジェンダー平等について意見を述べました。



## 鶏糞・堆肥の産廃処理に反対



経済文教委員会に唐突に来年3月に四賀有機センターを閉鎖し、在庫の鶏糞・堆肥2600トン産廃処理を産業廃棄物として処理する予算として2億円が提案されました。

コンサルタント業者からは閉鎖を2年～3年延期すれば有機肥料として販売ができるという情報提供がありました。

地元町会等で構成する有機センター運営委員会に図っていないことも問題です。予算案に反対しました。



## 銭湯は福祉



福祉入浴券の拡充を求めて銭湯で話し合う利用者

銭湯を訪れる人の多くは独り暮らしの老人です。入浴後に脱衣所で長い時間世間話に花を咲かせ、ゆったり過ごし元気に帰っていきます。

銭湯は清潔を保つだけの施設ではありません。常連さんがしばらく顔を見せないと「どうしたずら」と帰りに様子を見に行くなど、人のぬくもりとつながりがあります。原油高など厳しい経営状況ですが、銭湯は気楽に通える「福祉施設」と自負してやりがいを感じています。

市はお年寄りが楽しみにしている年間30枚の「福祉入浴券」を「助成券」に変え、使える施設を拡大しようとしています。しかし施設拡大ではなく「枚数を増やしてほしい」というのが利用者の切実な願いです。

「必要などころに必要な枚数の入浴券を」これが本当の意味での福祉ではないかと思えます。

(塩井の湯店主 田中洋子)



# くらしの相談から



**相談** 携帯電話の新規契約をするため携帯電話会社数社に行ったが「マイナーカード」がないと契約できないといわれ、カードの申請に行ったが1ヶ月はかかるといわれて困っているという相談

**対応** 「リスタート」というクレジットカードや銀行口座が無くても契約できる会社を紹介しました。マイナーカードが無くては契約できたと喜ばれました。

※運転免許証、健康保険証、各種手帳等身分を証明するものは必要です。

**相談** 認知症の最新治療薬「レカネバム」を使う治療を勧められたが、あまりにも高額のためにどうしたらよいかという相談

**対応** 高額療養費制度があり、年齢、所得により限度額は異なりますが、超えた金額が支給されます。国保の場合市役所で事前に「認定証」を発行してもらおうと窓口での負担が軽減されます。病院のケースワーカーに相談することを勧めました。

**相談** 発達障がいの方が働く場については職場の理解がないと働き続けることが難しいという相談

**対応** 障がい者基幹相談支援センター（双葉なんぷくプラザ内）に問い合わせさせて障がい者の雇用相談の現状等をお聞きしました。一定理解が進んでいる会社もあるがまだまだ課題があることがわかりました。

## 活動日誌



自治体学校 in 神奈川

記念講演はフォトジャーナリストの安田菜津記さん。「紛争地、被災地に生きる人々の声」と題して、写真を交えながら報告を聞きました。ある場面だけを切り取った報道ではなく、数年間かけて子ども達がどう生きてきたかを写真に収めて私達に問題を投げかけてくれました。どこか異国の地のガザの子ども達ではなく、私達のすぐ隣にいる友人という捉え方に気付き学ぶことができました。

## ほっとひといき



「医療のうたごえ祭典inながの」に出演しました。コロナ禍でやつと5年ぶりの開催ができました。全国から集まった合唱団の歌声や仲間の姿に励まされたり癒されたりでした。どこの合唱団もOBやOGが多くなっている現状で、練習することも難しくなっているといったことなどの交流もできました。久しぶりの舞台での演奏、気持ちよく歌えました。来年は仙台市での開催。

## 経済文教委員会視察

### お城の桜を守ろう



松本城の桜の維持管理についてを研究テーマに、彦根城、姫路城、津山城を視察しました。史跡として指定されている場所に新たに桜を植えることは難しいのですが、弘前城の樹木医中心の管理計画に学んで維持管理しているお城が多いことがわかりました。今後、市に提言していきたいと思えます。

## 債の皆さんと意見交換

### 寿台市営住宅建て替え計画



寿台の市営住宅が築50年を迎え、再整備計画が示されました。住民の意見を聞かずに進められているのは本意であることや、高齢化で引越し自体が大変であること・県営住宅に集約されることで家賃設定が高過ぎる等の意見が出されました。住民のみなさんの議会への陳情を支援をさせていただきました。